

CASBEE京都-新築(2011年版)

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年

立命館大学衣笠キャンパス新図書館(仮称)建築工事

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
				評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.5</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.4</b>	
<b>1 音環境</b>						<b>3.4</b>	0.15	-	-	3.4
<b>1.1 騒音</b>						<b>4.0</b>	0.40	-	-	学生同士の会話等の規制を閲覧室内で行う。
1 室内騒音レベル				<b>4.0</b>	1.00	1.0	-	-		
2 設備騒音対策				-	-	-	-	-		
<b>1.2 遮音</b>						<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	1.0	-	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	1.0	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	-	1.0	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				1.0	-	1.0	-	-		
<b>1.3 吸音</b>						<b>3.0</b>	0.20	1.0	-	
<b>2 温熱環境</b>						<b>3.7</b>	0.35	-	-	
<b>2.1 室温制御</b>						<b>3.2</b>	0.50	-	-	外壁U=0.8程度
1 室温				3.0	0.38	1.0	-	-		
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-	-		
3 外皮性能				4.0	0.25	1.0	-	-		
4 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	-		
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	-		
6 個別制御				-	-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	-		
8 監視システム				-	-	-	-	-		
<b>2.2 湿度制御</b>						<b>3.0</b>	0.20	1.0	-	床吹出し空調を採用
<b>2.3 空調方式</b>						<b>5.0</b>	0.30	1.0	-	
<b>3 光・視環境</b>						<b>2.8</b>	0.25	-	-	2.8
<b>3.1 昼光利用</b>						<b>2.6</b>	0.30	-	-	横格子ルーバー、軒、庇、ハイサイドライトを使
1 昼光率		●自然	A(全国版準用)	1.0	0.60	1.0	-	-		
2 方位別開口				-	-	1.0	-	-		
3 昼光利用設備		●自然	B(推奨内容)	5.0	0.40	3.0	-	-		
<b>3.2 グレア対策</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	-		
2 昼光制御		●自然	B(推奨内容)	3.0	1.00	1.0	-	-		
3 映り込み対策				-	-	-	-	-		
<b>3.3 照度</b>						<b>3.0</b>	0.15	1.0	-	
<b>3.4 照明制御</b>						<b>3.0</b>	0.25	1.0	-	
<b>4 空気質環境</b>						<b>3.8</b>	0.25	-	-	3.8
<b>4.1 発生源対策</b>						<b>4.0</b>	0.50	-	-	室内に面する仕上、天井裏の措置:全てF☆☆☆
1 化学汚染物質				4.0	1.00	3.0	-	-		
2 アスベスト対策				-	-	-	-	-		
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-	-		
4 レジオネラ対策				-	-	-	-	-		
<b>4.2 換気</b>						<b>3.3</b>	0.30	-	-	一人当たり30m3/hの換気量
1 換気量				4.0	0.33	3.0	-	-		
2 自然換気性能		●自然	A(全国版準用)	3.0	0.33	1.0	-	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	1.0	-	-		
4 給気計画				-	-	-	-	-		
<b>4.3 運用管理</b>						<b>4.0</b>	0.20	-	-	キャンパス全体で禁煙措置が取られている。
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50	-	-	-		
2 喫煙の制御				5.0	0.50	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	3.4
<b>1 機能性</b>						<b>3.2</b>	0.40	-	-	3.2
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>						<b>3.0</b>	0.40	-	-	建物周辺の緑化に面する窓、吹抜による広さ感
1 広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-	-		
3 バリアフリー計画		●大切	D(独自基準)	3.0	0.33	-	-	-		
<b>1.2 心理性・快適性</b>						<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		●とも	C(独自加点)	5.0	0.33	3.0	-	-		
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-	-		
3 内装計画		●とも	D(独自基準)	3.0	0.33	-	-	-		
<b>1.3 維持管理</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.1</b>	0.31	-	-	3.1
<b>2.1 耐震・免震</b>						<b>3.0</b>	0.48	-	-	躯体材料の耐用年数
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	-		
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-	-		
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>						<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		●大切	A(全国版準用)	3.0	0.23	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	-		

2.4 信頼性				熱源ガス電気併用、ダクト振れ止め 節水型器具採用、湧水利用	3.6	0.19	-	-	
1	空調・換気設備				4.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				4.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備			通信方法の多様化	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					4.1	0.29	-	-	4.1
3.1 空間のゆとり					4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり			階高4.3m以上確保。	5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁比率:0.12(図面計算資料参照) 閲覧室:5900N/m <sup>2</sup>	4.0	0.40	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり					5.0	0.31	2.0	-	
3.3 設備の更新性					3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース				3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	3.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	風致5種許可、軒、横格子ルーバーの採用。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)	ピロティ空間確保、ホール等コミュニティ利用、視線を遮らない樹木配置。	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制					2.5	0.30	-	-	2.5
2 自然エネルギー利用					4.0	0.20	-	-	4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)	ハイサイドライトの採用。	4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電システムの採用。	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化					4.5	0.30	-	-	4.5
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=26.1%	4.5		-	-	
集合住宅の評価					4.0		-	-	
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護					3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水				省水型機器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.4	0.63	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)	高炉セメント(使用部位:基礎)	5.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.2	0.22	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.3	0.68	-	-	
1	消火剤			不活性ガス消火剤を採用。	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33	-	-	
3	冷媒				3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮					3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮					2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			必要貯留量(93.3立米)／計画貯留量(161.7立)	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	0.33	-	-	
2	振動				3.0	0.33	-	-	
3	悪臭				3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			屋外照明の配慮	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目

重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる